

報道関係 各位

2017年8月8日

株式会社日本レースプロモーション

8月19日(土)～20日(日)

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 ツインリンクもてぎ 開催概要

株式会社日本レースプロモーション(代表取締役社長 倉下 明、所在地:東京都千代田区)は、8月19日(土)～20日(日)の2日間、栃木県芳賀郡茂木町 ツインリンクもてぎ(1周:4.801km)において、「全日本スーパーフォーミュラ選手権」第4戦を開催いたします。今大会は、ツインリンクもてぎの開業20周年を記念するレースとして開催されます。

今大会は、ノックアウト方式による公式予選と、決勝レース52周(249.672 km)にて争われます。

第4戦が行なわれるツインリンクもてぎは、ストップアンドゴーを繰り返すレイアウトのため、非常にブレーキに負荷がかかるコースとなっており、8月の暑さと伴って、毎年ドライバーにもマシンにも厳しいレースが繰り広げられます。

今大会は、シーズンを通して使用されているミディアムタイヤに加えてソフトタイヤが投入され、決勝レース中には両スペックのタイヤを使用することが義務付けられています。オーバーテイクが非常に難しいコースといわれるもてぎですが、新たなソフトタイヤの投入によってコース上でのバトルが増えることが期待されており、予選から2種類のタイヤをいかに使い分けるか、各チームのレース戦略に注目が集まります。

シリーズのランキングは、前大会の第3戦富士スピードウェイにおいて約1年ぶりの優勝を果たした石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)が、ドライバーランキングでもトップに立ち、全レースでポイントを獲得しているアンドレ・ロッター(バンテリン チーム トムス)が2位、岡山のRace2を制した関口 雄飛(イトウチュウエネクス チーム インパル)が3位、開幕戦で優勝を飾った中嶋一貴(バンテリン チーム トムス)が4位と続いています。この順位に対して、ルーキーのフェリックス・ローゼンクヴィスト(スノコ チーム ルマン)が5位、ピエール・ガスリー(チーム・ムゲン)が8位と、ルーキー勢も上位をうかがう位置につけており、もてぎのレース結果はチャンピオン争いに加わられるかどうかにより大きく影響する重要な一戦となります。



ランキングトップの No.2 石浦 宏明(ピーエムユーセルモインギング)

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY
 ActionCam

総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

公式予選

ノックアウト方式

- Q1 (20分間) 上位14台がQ2に進出。15～19位の順位が確定。
- Q2 (7分間) 上位8台がQ3に進出。9～14位の順位が確定。
- Q3 (7分間) 1～8位の順位が確定。

- ・セッションの間のインターバルは各10分
- ・ノックアウト方式の名称は、予選にて好タイムが出なければその場でノックアウト(脱落)されることから、この呼称となりました。

決勝レース

52周 (1周:4.801km×52周=249.672km)

ソフトタイヤ

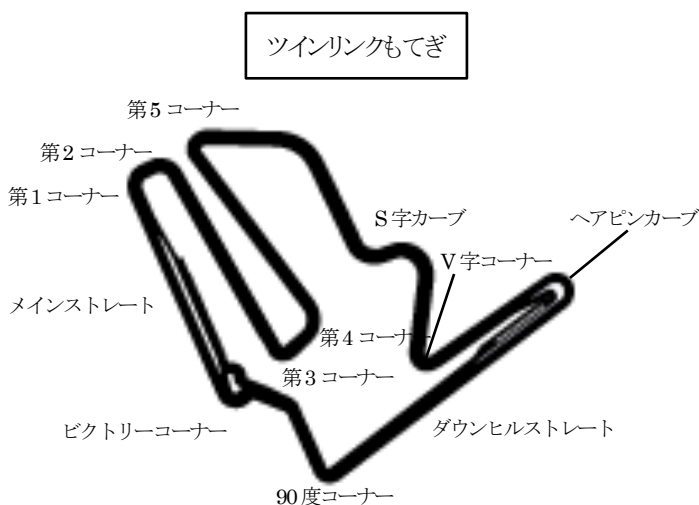
今大会では、通常の「ミディアム」タイヤに加え、よりグリップを増した「ソフト」タイヤが供給されます。昨年のもてぎでも投入されたソフトタイヤですが、昨年のもとはコンパウンドを含め一新されており、よりハイグリップとなる代わりにタイヤの劣化が早くなるよう開発が行われました。

もてぎではミディアム新品2セット、ソフト新品3セットが供給され、金曜日は前戦からの持越し中古タイヤ2セットとソフト3セットが使用可能。土曜日からは全7セットの中から6セットを選択します。



ツインリンクもてぎについて

全長距離、フルコース4.8kmを誇るヨーロッパスタイルのロードコースです。コーナー数14(右8、左6ヶ所)、最大直線長762m、最大高低差30.4mのこの国際規格サーキットでは、多彩でエキサイティングなレースが楽しめます。また、直線をタイトなコーナーで結んだストップアンドゴーのコースレイアウトから、非常にブレーキに厳しいコースとなっています。オーバーテイクポイントは非常に限られており、ダウンヒルストレートからの90度コーナー侵入でのブレーキング勝負が最大の見どころとなります。



Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ

SONY Action Cam

総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権第4戦 エントリーリスト

(車両:SF14、タイヤ:ヨコハマ)

2017年3月4日現在

Car No.	ドライバー名	生年月日	出身地	チーム名 (読み)	監督	エンジン
1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	1990/ 9/12	日本/神奈川県	P.MU/CERUMO・INGING (ピーエムユーセルモイニング)	立川 祐路	TOYOTA RI4A
2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	1981/ 4/23	日本/東京都			
3	ニック・キャシディ Nick Cassidy	1994/ 8/19	ニュージーランド	KONDO RACING (コンドーレーシング)	近藤 真彦	TOYOTA RI4A
4	山下 健太 Kenta Yamashita	1995/ 8/ 3	日本/千葉県			
7	フェリックス・ローゼンクヴィスト Felix Rosenqvist	1991/11/ 7	スウェーデン	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	片岡 龍也	TOYOTA RI4A
8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	1987/ 4/30	日本/群馬県			
10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	1986/11/20	日本/栃木県	REAL RACING (リアルレーシング)	金石 勝智	HONDA HR-417E
15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	1996/ 2/ 7	フランス	TEAM MUGEN (チーム・ムゲン)	手塚 長孝	HONDA HR-417E
16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	1988/ 7/11	日本/栃木県			
18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	1986/ 9/13	日本/兵庫県	KCMG (ケーシーエムジー)	土居 隆二	TOYOTA RI4A
19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	1987/12/29	日本/東京都	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	星野 一義	TOYOTA RI4A
20	ヤン・マーデンボロー Jann Mardenborough	1991/ 9/ 9	イギリス			
36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	1981/11/19	ドイツ	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	舘 信秀	TOYOTA RI4A
37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	1985/ 1/11	日本/愛知県			
40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	1989/ 9/15	日本/茨城県	DOCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	村岡 潔	HONDA HR-417E
41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	1984/ 6/ 1	日本/東京都			
50	小暮 卓史 Takashi Kogure	1980/ 8/ 1	日本/群馬県	B-Max Racing team (ビーマックスレーシング チーム)	組田 龍司	HONDA HR-417E
64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	1989/ 1/29	日本/愛知県	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	中嶋 悟	HONDA HR-417E
65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	1977/ 1/14	インド			

ホンダエンジン使用チーム:5チーム8台
トヨタエンジン使用チーム:6チーム11台

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
©日立オートモティブシステムズ
SONY ActionCam
ソニー エレクトロニクス株式会社
総 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 ポイントランキング

ドライバーポイントランキング

順位	No.	ドライバー	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1	OKAYAMA Rd.2-2	FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1	SUZUKA Rd.7-2
1	2	石浦 宏明 Hiroaki Ishiura	20.5	5	0.5	5	10	-	-	-	-	-
2	36	アンドレ・ロッテラー Andre Lotterer	18	4	5	3	6	-	-	-	-	-
3	19	関口 雄飛 Yuhi Sekiguchi	15	-	5	5	5	-	-	-	-	-
4	37	中嶋 一貴 Kazuki Nakajima	13	11	-	-	2	-	-	-	-	-
5	7	フェリックス・ローゼンqvist Felix Rosenqvist	10.5	-	-	2.5	8	-	-	-	-	-
6	16	山本 尚貴 Naoki Yamamoto	10.5	8	2	0.5	-	-	-	-	-	-
7	1	国本 雄資 Yuji Kunimoto	7	6	-	-	1	-	-	-	-	-
8	15	ピエール・ガスリー Pierre Gasly	5	-	-	1	4	-	-	-	-	-
9	18	小林 可夢偉 Kamui Kobayashi	4.5	-	2.5	2	-	-	-	-	-	-
10	41	伊沢 拓也 Takuya Izawa	4	1	-	-	3	-	-	-	-	-
11	3	ニック・カシディ Nick Cassidy	3	-	3	-	-	-	-	-	-	-
12	10	塚越 広大 Koudai Tsukakoshi	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
13	4	山下 健太 Kenta Yamashita	2.5	-	1	1.5	-	-	-	-	-	-
14	20	ヤン・マーデンborough Jann Mardenborough	2.5	-	1.5	-	1	-	-	-	-	-
15	64	中嶋 大祐 Daisuke Nakajima	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	40	野尻 智紀 Tomoki Nojiri	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	8	大嶋 和也 Kazuya Oshima	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	65	ナレイン・カーティケヤン Narain Karthikeyan	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	50	小暮 卓史 Takashi Kogure	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* 表中ポイント数字の **太字**:優勝 下線:予選ポールポジション

チームポイントランキング

順位	No.	チーム	ポイント	2017/4/22-23	2017/5/27-28		2017/7/8-9	2017/8/19-20	2017/9/9-10	2017/9/23-24	2017/10/21-22	
				SUZUKA Rd.1	OKAYAMA Rd.2-1	OKAYAMA Rd.2-2	FUJI Rd.3	MOTEGI Rd.4	AUTOPOLIS Rd.5	SUGO Rd.6	SUZUKA Rd.7-1	SUZUKA Rd.7-2
1	36 37	VANTELIN TEAM TOM'S (バンテリン チーム トムス)	30	14	5	3	8	-	-	-	-	-
2	1 2	P.M.U./CERUMO INGING (ピーエムユーセルモインギング)	25.5	11	0.5	4	10	-	-	-	-	-
3	19 20	ITOCHE ENEX TEAM IMPUL (イトウチュウエネクス チーム インパル)	16.5	-	5.5	5	6	-	-	-	-	-
4	15 16	TEAM MUGEN (チーム ムゲン)	15.5	8	2	1.5	4	-	-	-	-	-
5	7 8	SUNOCO TEAM LEMANS (スノコ チーム ルマン)	10.5	-	-	2.5	8	-	-	-	-	-
6	3 4	KONDO RACING (コンドー レーシング)	5.5	-	4	1.5	-	-	-	-	-	-
7	18	KCMG (ケーシーエムジー)	4.5	-	2.5	2	-	-	-	-	-	-
8	40 41	DDCOMO TEAM DANDELION RACING (ドコモチームダンディライアンレーシング)	4	1	-	-	3	-	-	-	-	-
9	10	REAL RACING (リアル レーシング)	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-
10	64 65	TCS NAKAJIMA RACING (ティーシーエス・ナカジマレーシング)	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-
	50	B-Max Racing team (ビーマックスレーシング チーム)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

* 表中ポイント数字の **太字**:優勝

* チームポイント:各チーム(エントリー)に所属するドライバーの獲得ポイントを合計。同一チーム(エントリー)に2台以上の車両が所属する場合は、上位2台分が得点対象となる。チームポイントには、ポールポジションのポイントは与えられない。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ

SONY
ActionCam

朝日 人気酒造

Broadcasting Partner

BSフジ

J SPORTS

—開催概要—

- 大会名称 : ツインリンクもてぎ2&4レース
2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第4戦 ツインリンクもてぎ
- 開催日程 : 2017年8月19日(土) 公式予選
2017年8月20日(日)決勝レース
- オーガナイザー : (4輪) エムオースポーツクラブ(M.O.S.C.)
株式会社モビリティランド
(2輪) 一般財団法人日本モーターサイクルスポーツ協会(MFJ)
株式会社モビリティランド
- 公 認 : (4輪) 国際自動車連盟(FIA)
一般社団法人日本自動車連盟(JAF)
(2輪) 国際モーターサイクルリズム連盟(FIM)
- 協 力 : (2輪) エムオースポーツクラブ(M.O.S.C.)
- 同日開催 : 2017 MFJ全日本ロードレース選手権 第6戦(JSB1000クラス)

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI
Inspire the Next
©日本オートモティブシステムズ

SONY
Action Cam

総 人気 酒造

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

【TV放映予定】

■ BSフジ 決勝戦生中継『2017スーパーフォーミュラ第4戦ツインリンクもてぎ』

番組では現地の臨場感をそのままお届けします。オフィシャルコメンテーター・ピエール北川と、アンバサダー本山哲の場内実況がサーキットの臨場感をリアルに伝え、ピットからはレース解説に定評のある松田次生と、今シーズンから初参戦の東(ひがし)美樹が、現場の緊張感をレポートします。

○実況:ピエール北川

○解説:本山哲

○ピットリポーター:松田次生、東(ひがし)美樹

○放送時間:2017年8月20日(日) 14:00～15:55

■ BSフジ『スーパーフォーミュラ GO ON!』

番組では、注目のレース関係者や豪華ゲストを招き「人」をテーマにトークを展開、スーパーフォーミュラの魅力に迫ります。MCは小林可夢偉と中嶋大祐の現役ドライバー2人。その2人をピエール北川がサポートし、さらに乃木坂46の樋口日奈がナレーターとして華を添えます。加えて、レースダイジェストコーナーでは、ピットリポーター松田次生がトップドライバーならではの徹底解説をお届けし、東美樹が現地でアシストをします。

《放送時間》

第4回: 2017年 8月13日(日) 25:00～25:55(再放送) ゲスト:本山哲、脇阪寿一

第5回: 2017年 9月 2日(土) 23:00～23:55

2017年 9月 3日(日) 25:00～25:55(再放送)

■ J SPORTS

全7戦の予選と決勝の模様をライブ中継。再放送やレースダイジェスト番組もOALします。

第4戦ツインリンクもてぎ

予選 2017年 8月19日(土) 14:00～16:00 J SPORTS 1 <生中継>

決勝 2017年 8月20日(日) 13:40～16:30 J SPORTS 1 <生中継>

ダイジェスト 2017年 8月31日(木) 0:45～ 0:55 J SPORTS 3

【映像の配信】

■ GYAO!

大会終了15日後よりスーパーフォーミュラの決勝レースを全戦オンデマンドにて無料配信。

※配信日時に変更となる場合があります。

<http://gyao.yahoo.co.jp/sports/>

■ YouTube

予選ならびに決勝の競技映像をダイジェスト版にて当日夜配信。

※配信日時に変更となる場合があります。

詳しくは予選ならびに決勝日の夜、「スーパーフォーミュラ オフィシャルウェブサイト」(<http://www.superformula.net/>)でご確認ください。

superformulavideo-YouTube

<https://www.youtube.com/user/superformulavideo>

【インターネット／ SNS】

- スーパーフォーミュラオフィシャルWEBサイト
<http://superformula.net>
- スーパーフォーミュラオフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/superformula.official>
- スーパーフォーミュラオフィシャル twitter
https://twitter.com/SUPER_FORMULA

【チケット情報】

- 前売観戦券(2日間有効)
大人1名:5,000円
高校生以上1名:2,500円
※中学生以下は保護者同伴に限り入場無料
※お車でご来場の場合は、別途駐車券が必要です
※大人:ゆうえんちパスポート1日分付
- 前売りバドックパス
大人1名:5,200円
子供1名(中学生まで):無料
※前売にて完売の場合は、当日券の販売はございません。あらかじめご了承ください。
※大人の方は別途観戦券が必要です。
※お子様はバドックパスをお持ちの大人のご同伴が必要です。
※激感エリアにご入場いただけます。

レースチケットのご案内(<http://www.twining.jp/2and4/ticket/>)をご参照ください。

*この件に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。
株式会社日本レースプロモーション (<http://www.superformula.net/>)
102-0074 東京都千代田区九段南2-3-25 平安堂ビル
e-mail:media@superformula.net
Tel:03-3237-0131 Fax:03-3237-0135

【2017年 全日本スーパーフォーミュラ選手権参考資料】

1. 全日本スーパーフォーミュラ選手権とは？

純然たるレーシングマシンであるオープン・シングルシーターのフォーミュラカーによって競われる国内最高峰の自動車レースです。一般社団法人日本自動車連盟(JAF)が公認し、株式会社日本レースプロモーションのプロモートにより、1996年にフォーミュラ・ニッポンとしてスタート。2013年より名称をスーパーフォーミュラに変更し現在に至っています。

2. チャンピオンシップ

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権は、全7戦、日本全国6カ所のサーキットを11チーム(エントリー)、国内外の19名(19台)のドライバー(※1)が転戦しチャンピオンが争われる、アジア地域唯一の国際格式選手権シリーズです。

(※1)ドライバー:国内:13名、海外:6カ国(ニュージーランド、スウェーデン、フランス、イギリス、ドイツ、インド)6名

2017年全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ開催スケジュール

日程	ラウンド/サーキット	予選方式	決勝レース方式
4 / 22 ~ 23	第1戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	200 km
5 / 27 ~ 28	第2戦/岡山国際サーキット	計時予選/ノックアウト	2 レース制
7 / 8 ~ 9	第3戦/富士スピードウェイ	ノックアウト	250 km
8 / 19 ~ 20	第4戦/ツインリンクもてぎ	ノックアウト	250 km
9 / 9 ~ 10	第5戦/オートポリス	ノックアウト	250 km
9 / 23 ~ 24	第6戦/スポーツランド SUGO	ノックアウト	250 km
10 / 21 ~ 22	第7戦/鈴鹿サーキット	ノックアウト	2 レース制

2017年シリーズ選手権 ポイントシステム

順位	優勝	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位	9位以下	pp
1大会1レース	10	8	6	5	4	3	2	1	0	1
1大会2レース	5	4	3	2.5	3	1.5	1	0.5	0	1

*P.P.:ポールポジション(予選1位)には、ドライバーにのみ1ポイントが与えられます。チームポイントには加算されません。

*1大会2レース制の場合、レース1、レース2共に1レース制の得点の半分が与えられます。

*1大会2レース制の場合、最終戦に限りレース1、レース2の勝者には通常ポイントとは別に3ポイントが与えられる。

これによりポールポジション+2連勝で最大18ポイントが与えられます。

*最終戦終了時点で、複数のドライバーまたはチーム(エントリー)が同一ポイントを獲得している場合は、高得点を得た回数が多い順に順位を決定します。

3. シリーズ賞典

シリーズ賞典として、年間チャンピオンドライバーには、株式会社日本レースプロモーションよりシリーズドライバーズチャンピオンカップと賞金が授与されるほか、自由民主党モータースポーツ振興議員連盟より同連盟杯が贈られ、観光庁より観光庁長官杯が交付されます。また年間チャンピオンチームには経済産業省より経済産業大臣杯が交付され、株式会社日本レースプロモーションより賞金が授与されます。

Series Partner

HONDA TOYOTA

Series Supporter

YOKOHAMA

Promotion Partner

HITACHI Inspire the Next
日立オートモティブシステムズ
SONY ActionCam
ソニー
人気気流

Broadcasting Partner

BSフジ **J SPORTS**

4. レース車両

◎シャシー

「クイック・アンド・ライト」をキーワードに開発されたSF14(イタリアダラーラ社製)を2014年より採用。
この車両を採用して以来、レースの質が一気に向上した事から海外からの注目を集めるようになりました。

◎エンジン

日本を代表する自動車メーカーであるホンダとトヨタが次世代エンジン開発に貢献するコンセプト=NRE(※2)に基づき開発したHONDA HR-417E、TOYOTA RI4A を搭載しています。

このエンジンの特徴としては「燃料リストラクター」(燃料流量規制システム)を全機装備し、燃料流量を一定にすることにより燃料をいかに効率良く活用しパワーに結びつけるかが、勝負の鍵となります。

厳しい開発競争の結果、効率の良さを図る“正味燃費消費率(BSFC)”、“正味熱効率”では市販ハイブリット車以上の性能を発揮しており、次世代エコエンジンの開発に貢献しています。

(※2)NRE エンジンについて

ホンダ、トヨタ、ニッサンが、環境技術とモータースポーツの面白さの両立に向けに決定したエンジン規定。

- ・気筒配列 : 直列4気筒
- ・排気量 : 2,000cc+ターボ
- ・燃料吸気方式 : ダイレクトインジェクション
- ・燃料流量制限 : 鈴鹿、富士大会… 燃料流量95kg/h
その他大会……………燃料流量90kg/h

◎オーバーテイクシステム

レースを盛り上げる一助として、オーバーテイクシステム(以下OTS)を2009年より採用しています。

このシステムは、スーパーフォーミュラが始めた仕組みです。

当該システムは、レースに於ける見せ場の一つである追い越しをより促すシステムです。

SF14のシステムは、各エンジンに装備されている燃料リストラクターを活用し、燃料供給量を一時的に増加させパワーを上げることができます。(※3)ステアリングにあるボタンを操作し、1大会につき5回、各20秒間使用可能となります。使用中は、ドライバーのヘルメット後方にあるランプ(オーバーテイクランプ=OTL)が点滅し、観客からも視認できます。

またポイントリーダードライバーは、その榮譽を称える意味から1台だけ赤色のランプ(名称:リーダーズレッド)を装着しています。

(※3)オーバーテイクシステムの効果について

- ・メカニズム : システム作動時に燃料流量を10kg/h増加させる
- ・効果 : 約60ps、10%の出力増
- ・ルール : 1回に20秒間作動、1大会で5回使用可能

◎タイヤ

2016年シーズンより横浜ゴム製のワンメイク供給です。横浜ゴムのスーパーフォーミュラ用ADVANレーシングタイヤは、スーパーフォーミュラが要求するグリップ、耐久性、安全性などの厳しい目標に対し、高いパフォーマンスを発揮、レースの盛り上げに貢献しています。